

## 八頭町地球温暖化対策実行計画の実施状況の公表 (平成29年度実績)

### ■ 削減目標

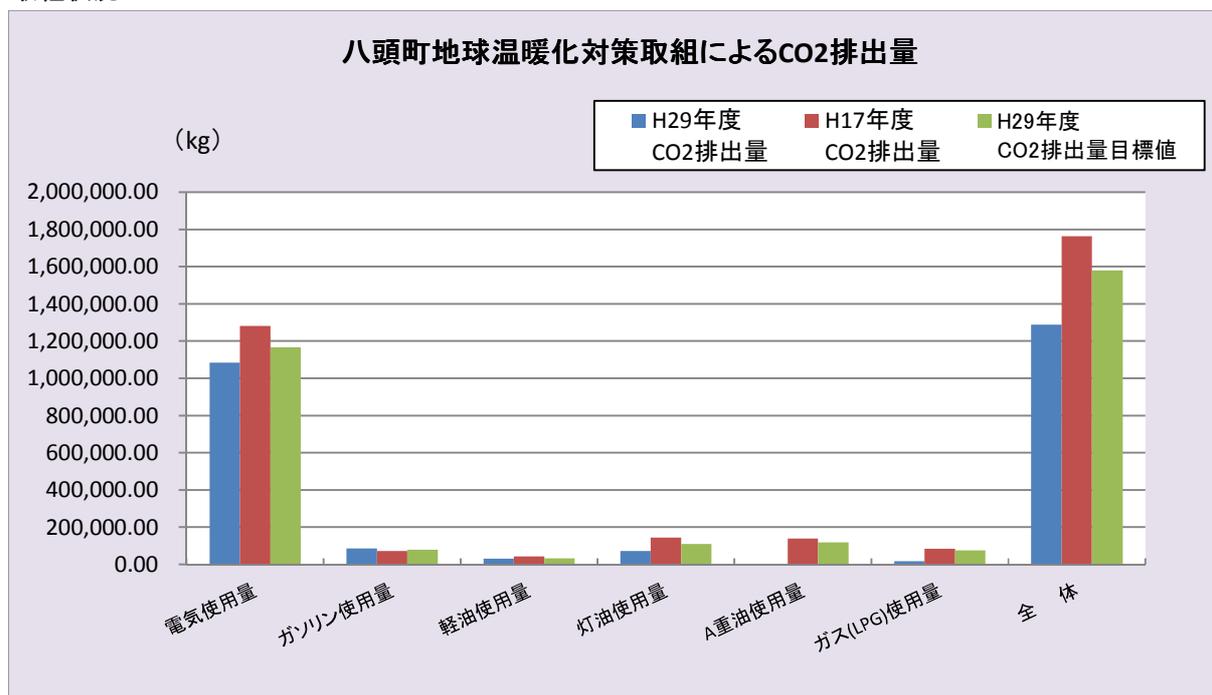
本計画は、平成22年8月に平成21年度実績をもとに目標値を見直し、平成24年度の二酸化炭素を対象とした温室効果ガス総排出量を、平成17年度対比で9.0%削減することを目指してきました。現在、計画第2期(平成25年度～平成29年度)として、二酸化炭素を対象とした温室効果ガス総排出量を、平成17年度対比で10.0%削減することを目指して最終年度として取組みを行いました。

### ■ 各取組項目別の削減目標と平成29年度使用状況

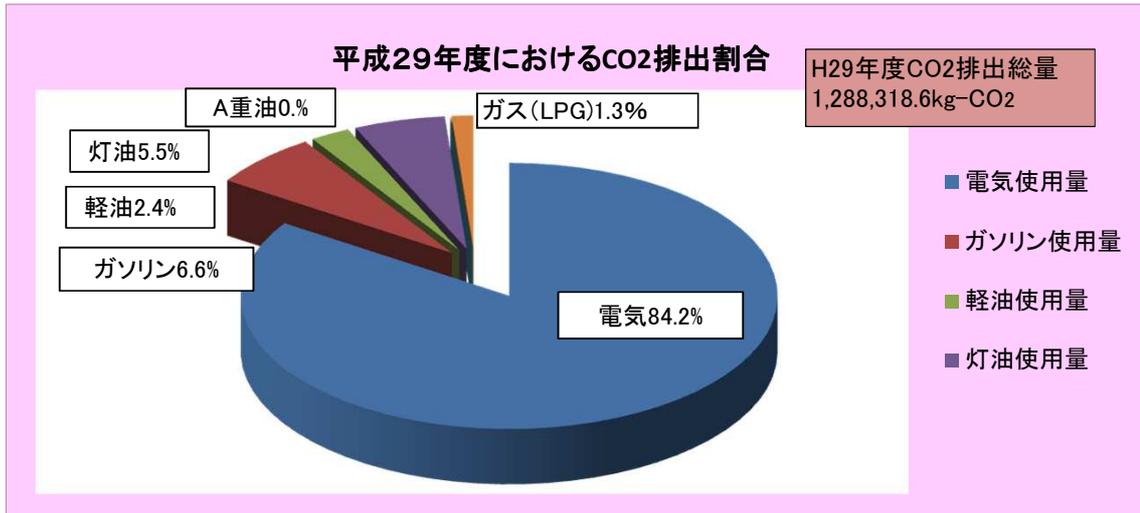
項目	平成29年度目標 (対平成17年度比)	単位	(基準年) 平成17年度 使用量等	平成29年度 使用量等	平成29年度 CO <sub>2</sub> 排出量 (kg-CO <sub>2</sub> )	使用量等 削減率	平成29年度 達成状況
電気使用量	9%以上削減	kwh	1,760,822.0	1,686,504.0	1,084,114.8	4.2%	×
ガソリン使用量	9%増までに抑制	ℓ	30,876.5	36,806.7	85,391.5	-19.2%	×
軽油使用量	24%以上削減	ℓ	16,463.5	11,898.6	30,698.4	27.7%	○
灯油使用量	24%以上削減	ℓ	58,020.0	28,627.2	71,281.7	50.7%	○
A重油使用量	15%以上削減	ℓ	51,126.0	0.0	0.0	100.0%	○
ガス(LPG)使用量	11%以上削減	m <sup>3</sup>	12,713.5	2,569.7	16,832.1	79.8%	○
紙使用量	可能な限り削減	枚	—	3,584,590.0	—	-52.7%	×
水道使用量	可能な限り削減	m <sup>3</sup>	—	22,095.0	—	(※49.8%)	○
可燃物排出量	可能な限り削減	kg	—	37,592.4	—	(※4.7%)	○
グリーン購入	環境配慮型製品の 積極的購入適合率	%	—	97.7	—	(※10.3%)	○
全体	CO <sub>2</sub> 排出量を10%削減	平成17年度CO <sub>2</sub> 排出量		1,762,918.1	26.9%	○	
		平成29年度CO <sub>2</sub> 排出量		1,288,318.6			

(注)表のうち、( )の数値はH17年度使用量とH29年度使用量で算出した削減率

### ■ 取組状況



■ エネルギー別CO<sub>2</sub>排出割合



■ 各項目ごとの取組結果

項目	取組結果
電気使用量	目標値(対H17年度実績値)9%以上削減に対して、4.2%減となりました。H28年度の削減率より8.7%増加しました。例年にない冬場の気温低下により、各施設における暖房の使用量が増え、大幅に増加したことが主な原因と考えられます。夏場は室温、湿度を確認しながら使用時間を調整し、設定温度を28度にすることや使用機器を間引く等工夫を行ったため、大幅な増加にはなりません。近年施設の電化に伴い他のエネルギーが電気へ変換されていることや、異常気象や災害による電気使用量が増える傾向にあります。施設の統廃合による使用量の削減と同時に、各施設における空調や事務機器等の適切な利用を進め、職員一人一人が日々継続して取組みを行います。
ガソリン使用量	目標値(対H17年度実績値)9%増までの抑制に対して、19.2%増という結果となりました。以前貸し出しをした車両の返却のためやむを得ず燃費の悪い車両を使用したことや、軽油車からガソリン車へ変更、出張等での長距離走行する車両が集中したこと、災害等による点検業務での走行が増えたことが主な原因と考えられます。引き続き『公用自動車使用手順書』によりエコ運転に心がけ、乗り合わせや外出業務をまとめて行う等効率的に使用することに努め、電気自動車をも有効活用しながら継続して取組を行います。
軽油使用量	目標値(対H17年度実績値)24%以上削減に対して、H29年度は27.7%削減されました。給食配達車や除雪車、ダンプでの使用量が減ったことで、昨年度よりも削減率が1.9%上がりました。大型車両は、積雪等気象により使用頻度が変わったり、利用回数や運行距離等により使用量が大きく変わりますが、引き続き適切な利用及び経済的な走行を心掛け、更なる削減を目指します。
灯油使用量	目標値(対H17年度実績値)24%以上削減に対して、H28年度は50.7%の削減となりました。昨年度より使用量も減り、削減率も6.3%上がりました。例年にない冬場の気温低下により秋ごろから暖房使用が増え、主に子どもや高齢者が使用する施設で使用量が増えましたが、主にエアコンを使用するようになった施設や利用者へのウォームビズの啓発の結果、全体として使用量が減少しました。気温の変動により使用量が変わりますが、こまめな温度湿度チェックによりエアコンと併用しながら暖房機器を適正使用し、職員一人一人が積極的にウォームビズへ取組み、利用者への啓発を継続し、今後も更なる削減を目指します。
A重油使用量	目標値(対H17年度実績値)15%以上削減に対して、100%の削減となりました。H29年度からA重油を使用する施設がなくなり、ボイラーでの使用量がなくなったためです。
ガス(LPG)使用量	目標値(対H17年度実績値)11%以上削減に対して、79.8%の削減ができました。昨年度に引き続き削減ができ、H28年度より削減率が5.8%上がりました。支所や町民向けの事業を行う中央公民館では昨年度より使用量が増えています。大きく使用量が減っている施設もあり、全体的に使用量が減りました。今後も施設の統合やオール電化によりLPガスの使用量が減少することが見込まれます。今後も使用する施設においては業務への支障をきたさないよう無駄を省きながら、削減に向けた取組みを推進します。
紙使用量	H23年度から購入量で集計を行っていますが、年々増加傾向にあり、H29年度も昨年に引き続き増加しました。全体的には大幅に減った施設もありましたが、それ以上に大幅に増えた施設が多くありました。主に一括購入した施設や、新規事業に係るチラシの印刷枚数や資料作成枚数が増加したためと考えられます。今後も内部資料の裏面使用を徹底するとともに、支障のない範囲で両面使用を積極的に行い、ミスコピー抑制のための対策を検討し、データ化する等紙の購入量削減に向けた取組みを行います。

水道使用量	目標値(対H17年度実績値)可能な限り削減に対して、49.8%の削減となり、昨年度から更に2.1%削減できました。冬場の凍結により水道管の破裂等で漏水が見られた施設もありましたが、水道施設管理課との連携により早期の発見及び修繕ができました。今後もすべての施設において節水に心掛け、担当課との連携を図りながら漏水の早期発見に努め、取組み並びに啓発を行っていきます。
可燃物排出量	目標値(対H17年度実績値)可能な限り削減に対して、H28年度は4.7%の削減となりました。昨年度までは小中学校や保育所の統廃合があったため、基準となるH17年度の排出量を下回ることはありませんでした。しかし、H29年度は、H17年度排出量を下回る排出量となりました。今後も施設の統廃合がありますが、各施設において廃棄物の分別を徹底し、資源ごみとの分別に努めるよう職員一人一人が意識的に取り組みます。また、紙類は古紙回収や再生工場へ持込みを行う等、リサイクルできるものは資源として排出し、可燃物の削減に努めます。
グリーン購入	目標は「環境配慮型製品の積極的購入」で、H29年度のグリーン購入適合率は97.7%でした。H17年度に比べ、購入率は10.3%の増です。今後もグリーン購入基本方針に基づき、指定物品の100%グリーン購入を目指すとともに、代用品がないものについても、可能な限り環境に配慮した物品の購入に努めます。

#### ■ その他の取組

##### ペットボトルキャップリサイクル

町内の公共施設にペットボトルキャップの回収ボックスを設置し住民の方からもキャップの回収を行い、回収業者へ引き渡しています。

※平成29年度中における回収量

201.4kg	約 81,040個
---------	-----------

#### ■ まとめ

平成29年度の二酸化炭素を対象とした温室効果ガス総排出量は、平成17年度と比較して全体で474,599.5(kg-CO<sub>2</sub>)削減することができました。これは全体の削減率で見た場合26.9%となり、平成17年度比9%以上削減という目標を達成しています。しかし、項目別に見ると、ガソリンは公用車の台数及び走行距離が増えており目標値には未だ届かず、使用量も増える傾向が続いています。また、電気使用量は施設の統廃合によるものや設備の改修により電化する施設もあるため、現時点での目標は達成していても、今後増えることが予想されます。紙の使用量にあっては、年々増加しているため、事務機器の使用方法の改善も含めながら削減に向けて改めて対策を講じる必要があります。

ガソリンについては、再度『公用車使用手順書』に沿った運用を心掛け、公用車を適切に維持管理し、経済的な走行や空調の使用を意識し、職員間で乗り合わせたり、外出業務をまとめる等効率的に使用するよう更に努めていく必要があります。また、電気自動車を積極的に活用したり、燃費の悪い車両は使用を控え早めに交換する、新規導入にあたっては必要性を十分検討し、できるだけ低公害車を優先するなどの取り組みも必要と考えます。

可燃物排出量については、各施設において日々の廃棄物分別の徹底に職員一人一人が継続して取組み、可燃物の減量に努める必要があります。また、今後も統廃合が予定されている中で、廃棄する前に再利用が可能な物品等は廃棄せず活用し、廃棄するものは分別を徹底し可能な限り排出量を削減するよう努める必要があります。紙類については、可燃物に含めずできる限り古紙回収に出し、平成28年度から実施している機密文書のリサイクル施設への持込みも継続して行い、今後も可燃物中の紙の排出を減らすよう分別に努める必要があります。

紙の使用量については、ミスコピーを減らし、両面コピー・両面印刷にしたり、資料の再利用を行って紙の使用量を減らすことや、裏面使用と廃棄用紙の分別を徹底し、支障のない範囲で積極的に裏面使用を活用するよう、事務機器の使用方法を含め再度職員の意識改革を図り、全体で取り組む必要があります。

その他の項目についても、日々の積み重ねが大きな削減につながることを理解し、職員一人一人が省エネや環境保全意識を常に持ちながら、具体的な計画に基づき、日々の取組を継続していきます。